

- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐる 平成18年9月19日
講師/佐倉 一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米 えみさん ながのクラッセ会長
樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷲沢 幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトーブ」/長野市をピオトーブネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜 このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだけは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ 一変化に対して前向きになることの大切さ 平成20年8月19日
講師/針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野ハルセイロ 一優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドゥ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践 宇宙のリスムにあった農業で一次産業の再生を試みる 平成21年6月3日
講師/塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出 陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化 一漬物の新しい風 平成21年9月2日
講師/宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしよ/代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野ハルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J〜Jを長野に… いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木 政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長・緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をもすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭

第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

第36回 すべてが一丸となって、ながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川了洋さん AC長野ハルセイロ監督

第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤 研一さん 農業生産法人榎水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/俣田 達男さん NTT東日本 長野支店長

第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役

第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師/藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家

第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師/矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長

第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師/近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長

第44回 信州の分水嶺 ～山と川と里～ 平成25年8月22日
講師/栗田 貞多男さん 写真家

第45回 長野市の魅力と不動産取引の発展性 平成25年11月20日
講師/嶋志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長

第46回 地域におけるバイオマス利活用について 平成26年1月29日
講師/天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授

第47回 AC長野ハルセイロ 一私のチームマネジメントについて 平成26年3月3日
講師/美濃部 直彦さん AC長野ハルセイロ監督

第48回 わたしにとってのボランティア 平成26年4月16日
講師/丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長

第49回 金沢の未来と長野へのエール 新幹線で結ぶ金沢と長野の絆 平成26年5月26日
講師/浅野 邦子さん 株式会社 第一 代表取締役会長

第50回 取材を通してみた長野の魅力 ～長野をもっと元気に!～ 平成26年10月8日
講師/平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

第51回 チームマネジメント 平成27年1月19日
講師/本田 美登里さん AC長野ハルセイロ・レディース監督

第52回 本物のおもてなし ～加賀屋の経営理念とビジョン～ 平成27年3月17日
講師/小田 與之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長

第53回 地域の元気をつくる「成長企業」は、ここが違う!～地方の中規模企業が成功するための法則とは?～ 平成27年7月1日
講師/廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長

第54回 長野から宇宙へ! ～ローカル企業のチャレンジ～ 平成27年8月25日
講師/羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役

第55回 食を通じて発見 知られざる長野の魅力! 平成27年10月8日
講師/中島 麻希さん 1級フードアナリスト

第56回 摩訶不思議!長野の神社の靈感の世界 平成27年11月17日
講師/齋藤 安彦さん 宮司

第57回 大河ドラマ「真田丸」の舞台裏 ～撮影を通して見た信州の魅力～ 平成28年4月2日
講師/屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー

第58回 真田丸の時代を語る ～時代考証の舞台裏 平成28年7月2日
講師/平山 優さん 歴史研究者

第59回 寺町商家の運営で気づいた、食の力 平成28年8月30日
講師/西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー

第60回 地域から社会を変えよう! 行動する人の集まる港CREEKS 平成28年11月11日
講師/広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表

第61回 長野ハルセイロ 一今シーズンの目指すチームづくり 平成29年3月13日
講師/浅野 哲也さん AC長野ハルセイロ監督

第62回 輝く女性の活躍で長野県の企業を更に魅力的に! 平成29年5月30日
講師/中島 恵理さん 長野県副知事

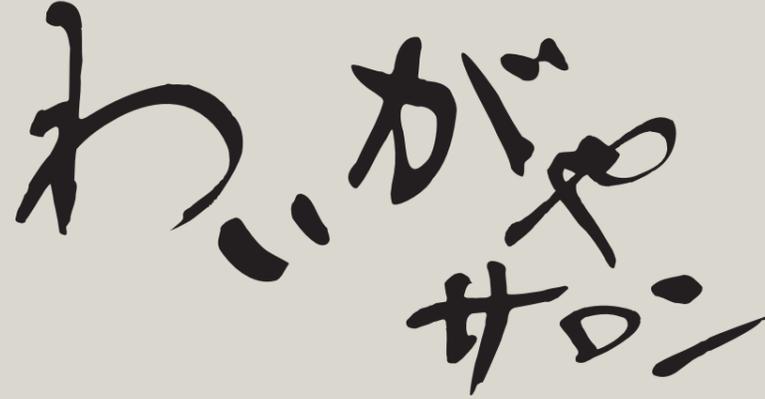
第63回 信州は橋の都 千曲川と犀川に架かる名橋/日本一美味しい飯山のお米 平成29年7月19日
講師/服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 64
2017.8



中央通りからの善光寺

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第64回

少子高齢化時代の長野市を考える ～行政の政策現場から見えるもの～

平成29年8月23日(水) 18:00～20:00

講師／平尾 勇さん

長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)

■座長:岩野 彰 場所/NUPRI事務所

線状降水帯、スーパーセルなど、温暖化の影響か、予期せぬ気象が多発した今夏——8月下旬のサロンでは、これからの長野市を考える一助として前松本市商工観光部長で(一社)長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサーの平尾勇さんをお招きし、松本市での取組も交えて掲題のお話を伺いました。

高齢社会を「元気シニアが活躍する」社会に

長野市の人口の推移をみると、2000年の38万8千人をピークにどんどん減少し、2040年には丁度高度成長期の人口の1955年と同水準の30万2千人。人口増加から人口減少へ、その頂点付近の1998年に長野オリンピックを開催したことになります。今後、右肩下がりの減少傾向が続き、2060年には23万2千人。長野市人口の15万人を失う、という推計です。長野市人口ビジョンは、2060年になんとか30万人を維持するようにしたい、そのために様々な政策を総動員して人口30万人を割り込むのを20年間先送りにしたい、というのが基本姿勢です。

人口減少をもたらしたのは文字通り少子化ですが、同時に子供の減少が相対的に高齢者の比率を高めるという形で、高齢化率が上昇します。長野市の高齢化率は2015年時点で28.5%。2040年には10ポイント上昇して38.4%。遥かに全国水準を上回る超高齢社会が到来するわけです。

次の世代を支える子供が少なく、高齢者が多い社会は、現役世代の負担が増し、活力のない閉塞した社会、といわれます。本当にそうなのでしょうか?65歳以上の高齢者は社会の荷物という発想そのものが、政策の選択の幅を狭めているように思います。

実際、長野県長寿社会開発センターの調査(対象60歳以上800名)によれば、8割の人が自分は実際の年齢より「1歳～10歳若い」、8割弱の人が「自分は行動的」と回答しており、シニア層には健康で意欲的な方が多いんですね。こういう人たちが活躍できるシステムを考えることが非常に大切です。シニア層が、支えられる側から社会を支える側にまわり、地域の可能性を引き出していくことが、今後の長野市にとって極めて重要です。現に、74歳の加藤市長は「デッカイ元気玉をドカーンと吹き込もう」が口癖ですね。将来の長野市を背負う子供も大切ですが、今生きるシニア層がいきいきと自分の住む地域の未来を支える。「子供は宝、シニアもまた宝」という発想ですね。

新しい長野を創るには

長野市の将来を考えると、どんな可能性があるか、どんなところを伸ばしていくか。6つほどあげたい。①都市の中心性を高め吸引力の原点である善光寺の力は、今後とも大きな役割を持つと思います。仏都NAGANOなど癒やしや巡礼を求めている人が増加しています。長野市のヘソですね。②今、医療やヘルスケア産業、健康食品などの分野で、酵母や菌に着目した研究開発が急速に進んでいます。長野市には味噌・酒で培われた発酵や菌の培養技術とICT産業の集積があり、こうしたハイテク農業とバイオの融合とによる新領域は大きなマーケットですね。③長野市は犀川の扇状地として形成され、その伏流水による南北の水路、東西の水路が交錯するように流れており、実は、長野市は水にあふれた地域です。それに高い晴天率、森林に囲まれた澄んだ空気。「水・光・空気に満ちた都市」。こうした県庁所在都市の自然環境は類を見ないですね。④長野県が健康長寿県であるように、長野市も健康な高齢者が活躍するまちであり、健康づくりと健康産業との融合を目指しています。生活習慣病改善のパロメーターである「健診受診率」も高く、「サキベジ」のような民間企業が主導する健康づくりの取組もあります。⑤今からちょうど20年前の1998年、日本で札幌に次いで開催されたのが長野五輪です。新幹線や高速道路が開通し、選手村や幾つもの五輪関連施設が建設され、子ども達が各国選手を迎えた「一校一国運動」は世界の五輪開催地に受け継がれました。こうした五輪の舞台で多くの人々が集まり素晴らしいドラマが生まれました。五輪開催地「NAGANO」のレガシーは世界に浸透しています。⑥最後に、ここ10年にわたって長野市が取組んできた都市内分権です。まだ完成形ではありませんが、地域コミュニティの充実、地域の絆の確認など、元気なシニア層が活躍する素地は地域社会の中で広がっています。

この6つのコンセプトの頭文字をとると、①Zenkouji、②Agriculture、③Water、④Healthcare、⑤Olympic、⑥Kizuna で「ZAWHO

K」:ザワック、という造語です。地域がざわざわして活気があり、企業も人もざわざわ集まってきて、元気なシニアがいつでもざわざわしている、というイメージです。課題山積の長野市でなく可能性が山積した長野市です。そんな新しい長野市を創造したいですね。

松本での8年間

私は民間シンクタンクである長野経済研究所(八十二銀行)に長らく在籍した後、行政の現場に転じました。松本市に限らず、どこの自治体も近年同じような問題、医療費の増大、地域コミュニティの希薄化、過疎地域のコスト負担等を抱えています。そうした課題を解決していくためには財政的・人的負担が大きく、もはや行政だけで解決することは不可能に近い状況です。ではどうするか?1つにはICTを徹底的に活用すること、2つには官民連携による民間の知恵とノウハウの行政現場への導入です。企業のパワーを行政の中にどう引き入れるか、しかもこれを持続可能な形で継続するには、企業にとっては利益が出なければなりません。地域の課題を解決することで、企業が利益を上げるにはどうするか、このための官民連携の仕組みを創ってきたのが松本での8年間の仕事でした。

菅谷松本市長(医療者でもある)は2010年、「健康寿命延伸都市」構想を表明しました。私が招聘されたのはその翌年で、市長の構想表明を第1ステップとすると、第2ステップとして2011年に産学官連携と情報基盤のプラットフォームである「松本地域健康産業推進協議会」を設置し、同年12月健康に関する「ダボス会議」を目指して「世界健康首都会議」を開催しました。第3ステップは実証フィールドの形成と健康づくりの場として2014年に「松本ヘルス・ラボ事業」をスタートさせ、2015年には現役世代の健康づくりを目指す「松本市健康経営研究会」、地域包括ケアシステムをにらんで「医療・福祉・健康ICT基盤研究会」を設置しました。

官民連携の具体例を挙げると①コンビニ駐車場での健康相談により健診率を引き上げる取組、②健診をうけた預金者には金利を上乗せする、健康寿命延伸特別金利定期積金の商品開発と販売、③カラオケ会社と組んで、定年退職後の男性の引きこもり予防のために、発声練習の基礎訓練をへて、英語でゴスペルを習いコンサートホールで発表する取組、④血糖値の高い糖尿病予備軍に対して薬局で生活習慣病予防のコーチングを行い、人工透析への移行を未然に防ぐ取組等々。いずれもそれを解決することは行政の課題であり、企業にとってみれば大きなビジネスチャンスでもあります。

私の最後の仕事とも言えるのは中心市街地の伊勢町に「松本ヘルス・ラボ サロン」を作りました。これは、健康づくりのために市民が気軽にいつでの集まれる場所であり、企業がそこで健康に関するワークショップを開催したり、健康情報を提供する場所として利用できます。企業の担当者や大学の研究者が打合せしたり、市の保健師が来て、市民の健康チェックする場所でもあります。要は官民連携を具体的に推進し、それを象徴する組織として機能しています。

パブリック・イノベーションとCSV(共通価値の創造)

行政が抱えている地域の様々な課題は、日増しに複雑化し高度化しています。先にも述べましたが、このような地域の課題を行政のみで解決しようとしてももはや困難です。私が松本で痛感したのは、この課題解決に官民連携による新しい協働プロジェクトの組成が不可欠だということです。

地域の課題解決こそが「地方創生」です。これはまちの魅力を磨き、スキル・ノウハウをもった人々を育て、集め、そうした人の働く場をしっかりと整えること。さまざまな分野にこうした仕組みを作り込むこと必須事項です。経営学の権威ハーバード大学のM. ポーター教授は、課題を解決するところに市場が生まれ、そこで得られた企業利益が持続可能な経済活動を保証し、市民は今まで以上の質の高いサービス享受することができる、という「共通価値の創造」:CSV(Creating Shared Value)を提唱しています。

そのためには、行政側の柔軟な組織運営と同時に、行政の中に民間企業とのインターフェイス機能をもつセクションがまず求められます。そして、民間部門との協働を実現するためには、パブリック部門の働き方、平たくいえば市役所職員の仕事の進め方を抜本的に変えていかなければならない。いつまでたっても発注者と受注者の関係でしか民間部門との付合を知らない公務員では、CSVの実現は程遠いということです。

究極のところ、CSVの徹底した追求とそれを推進するためのパブリック部門の機構改革イノベーションをどこまで実現できるか、長野市の将来にとってこのことは決定的に重要になってくると思います。今後の動きに期待したいですね。

わいがやタイムではパブリック・イノベーション、企業のCSV等について白熱した議論が展開されました。



ZAWHOKが新しい長野を創る

- 善光寺の力 : Zenkouji
 - ⇒ 都市の中心性を高め、吸引力の原点
- ハイテク農業とバイオの融合 : Agriculture
 - ⇒ 発酵技術、酵母、菌の可能性
- 水溢れる生活環境と住環境 : Water
 - ⇒ 自然環境対応、地理的条件
- 健康長寿と老後の安心 : Healthcare
 - ⇒ 医療費の適正化、健康づくりと産業振興との融合、
- オリンピックの遺産 : Olympic
 - ⇒ マウンテンサミットの実施(グローバル五輪)
- 地域の絆は土地の力 : Kizuna
 - ⇒ 都市内分権の推進、地域コミュニティの充実

